



イエスは身を隠して、神殿の境内から出ていかれた（ヨハネ、8.59）

御受難の主日のミサ固有唱

詩編 42:1-2

JUDICA me, Deus, et discérne causam meam de gente non sancta: ab hómine iníquo et dolóso éripe me: quia tu es Deus meus et fortitúdo mea. Ps. 42.3. Emítte lucem tuam et veritátem tuam: ipsa me deduxérunt et adduxérunt in montem sanctum tuum et in tabernácula tua. Júdica me.

QUÆSUMUS, omnipotens Deus, famíliam tuam propítius réspice: ut, te largiénte, regátur in córpore; et, te servánte, custodiátur in mente. Per Dóminum.

ヘブライ 9.11-15

FRATRES: Christus assistens pón tifex futurórum bonórum, per ámplius et perféctius tabernáculum non manufáctum, id est, non hujus creatiónis: neque per sánguinem hircórum aut vitulórum, sed per próprium sánguinem

入祭唱

神よ、私を弁護し、私の訴えを、不敬の人の訴えと分け、不正な邪な人々より、私を解き放ちたまえ。なぜなら、かみよ、主こそ私の力である。

主の光明と真理とを送りたまえ。それらが、私を導いて、主の聖なる山、主の幕屋に至らせるであろう。

集祷文

全能の神よ、願わくは、主の家族を、御憐れみをもて顧みたまえ。なお御慈悲によって彼らが、身体を保護され、御保護によって霊的生活をも守られんことを。神として……

書簡

兄弟たち、キリストはすでに現れた恵みの大祭司として来られたのです。キリストは、人間の手によって造られないもの、すなわち、この世に属さない、さらに大きく、さらに完全な幕屋を通して、雄山羊と子牛の血によらず、ご自分の血

introívit semel in Sancta, ætéRNA redemptióne invénta. Si enim sanguis hircórum et taurórum, et cinis vítulæ aspérsus, inquinátos sanctificat ad emundatiónem carnis; quanto magis sanguis Christi, qui per Spíritum Sanctum semetípsum óbtulit immaculátum Deo, emundábit consciéntiam nostram ab opéribus mórtuis, ad serviéndum Deo viventi? Et ídeo novi testaménti mediátor est: ut morte intercedénte, in redemptiónem eárum prævaricatiónum, quæ erant sub prióri testaménto, repromissiónem accípiant, qui vocáti sunt ætéRNæ hereditátis, in Christo Jesu Dómino nostro.

詩編 142.9,10

ERIPE me, Dómine, de inimícis meis: doce me fácere voluntátem tuam.

V. Liberátor meus, Dómine, de géntibus iracúndis: ab insurgéntibus in me exaltábis me a viro iníquo erípies me.

詩編 128.1,4

SÆPE expugnavérunt me a juventúte mea. Dicat nunc Israél: sæpe expugnavérunt me a juventúte mea. Etenim non potuérunt mihi: supra dorsum meum fabricavérunt peccátóres. Prolongavérunt iniquitátes suas: Dóminus justus concídit cervíces peccatórum.

によって、ただ一度だけ聖所にお入りになり、わたしたちのために永遠の贖いを獲得されたのです。もし、雄山羊と雄牛の血や、若い雌牛の灰を、汚れた者に振りかけることによって、彼らの体が清められて聖なるものとされるなら、まして、永遠の霊によって、汚れない犠牲として、ご自分を神におささげになったキリストの血は、わたしたちを生ける神に仕えるものとするために、死をもたらす行いから離れさせ、わたしたちの良心をきよめないでしょうか。それ故、キリストは新しい契約の仲介者であって、最初の契約の時に人々が犯した過ちを贖うために死なれたのです。これは召された者が、すでに約束された永遠の遺産を受け継ぐことができるためです。

昇階唱

主よ、私を、敵の手より救い、思召しを行うことを教えたまえ。

怒り狂う民より私を救い出すのは、主よ、御身にてまします。御身は、私に反して立ったものに、私を勝たせ、不敬の者の手より私を救い給う。

詠唱

彼らは、私の若い時から、絶えず私に対して戦い続けた。イスラエルは、今、言うであろう、私の若い時から、絶えず私に対して戦い続けたと。しかし、彼らは勝つことができなかった。罪人は私の肩を打ち、長らくその悪を続けた。しかし、正義なる主は、罪人の頭を落とし給うた。

IN illo tempore: Dicébat Jesus turbis Judæorum: Quis ex vobis arguet me de peccato? Si veritatem dico vobis, quare non creditis mihi? Qui ex Deo est, verba Dei audit. Propterea vos non audistis, quia ex Deo non estis. Respondérunt ergo Judæi, et dixerunt ei: Nonne bene dicimus nos, quia Samaritanus es tu, et dæmónium, habes? Respóndit Jesus: Ego dæmónium non hábeo: sed honorífico Patrem meum, et vos inhonorástis me. Ego autem non quæro glóriam meam: est qui quærat, et júdicet. Amen, amen dico vobis: si quis sermónem meum serváverit, mortem non vidébit in ætérnum. Dixerunt ergo Judæi: Nunc cognóvimus quia dæmónium habes. Abraham mórtuus est et prophétæ: et tu dicis: Si quis sermónem meum serváverit, non gustábit mortem in ætérnum. Numquid tu major es patre nostro Abraham, qui mórtuus est? et prophétæ mórtui sunt. Quem teípsum facis? Respóndit Jesus: Si ego glorífico meípsum, glória mea nihil est: est Pater meus, qui glorificat me, quem vos dicitis quia Deus vester est, et non cognovístis eum: ego autem novi eum: et si vobis, mendax. Sed scio eum, et sermónem ejus servo. Abraham pater vester exsultávit, ut vidéret diem meum: vidit, et gavísus est. Dixerunt ergo Judæi ad eum: Quinquagínta annos nondum habes, et Abraham vidísti?

その時、イエスはユダヤ人の群衆に言った。「あなた方のうち誰が、わたしに罪があると責めることができるのか。わたしが真理を語っているのに、なぜ私を信じないのか。神に属している人は神の言葉に聞き従う。あなた方が聞き従わないのは、神に属していないからである」。ユダヤ人たちが答えて言った、「あなたはサマリア人で、悪霊に取り憑かれていると、わたしたちが言うのは、当然ではないか」。イエスはお答えになった、「わたしは悪霊に取り憑かれていない。かえってわたしの父を敬っている。だが、あなた方はわたしを侮辱している。わたしは自分の栄光を求めない。それを求めて、裁いてくださる方がおられる。よくよくあなた方に言うておく。わたしの言葉を守るなら、その人は永遠に死を見ることはない」。ユダヤ人たちはイエスに言った、「悪霊に取り憑かれていることが、これではっきり分かった。アブラハムは死んだ。預言者たちも死んだ。それなのに、あなたは、『わたしの言葉を守るなら、その人は永遠に死を味わうことはない』と言う。あなたはわれわれの父アブラハムより偉いのか。アブラハムは死んだ。預言者たちも死んだ。あなたは自分をいったい何ものだと言うのか」。イエスはお答えになった、「わたしが自分自身に栄光を帰するなら、わたしの栄光はむなし。わたしに栄光を与えてくださるのは、わたしの父である。その方のことを、あなた方は『われわれの神である』と言っている。あなた方はその方を知らないが、わたしはその方を知っている。

Dixit eis Jesus: Amen, amen dico vobis, ántequam Abraham fieret, ego sum. Tulérunt ergo lápides, ut jácerent in eum: Jesus autem abscóndit se, et exívit de templo.

詩編 118.17,107

CONFITÉBOR tibi, Dómine, in toto corde meo: retríbué servo tuo: vivam, et custódiám sermónes tuos: vivífica me secúndum verbum tuum Dómine.

HÆC múnera, quæsumus, Dómine, et víncula nostræ pravitátis absólvant, et tuæ nobis misericórdiæ dona concílient. Per Dóminum.

VERE dignum et justum est, æquum et salutáre, nos tibi semper, et ubíque grátias ágere: Dómine sancte, Pater omnípotens, ætérne Deus: Qui salútem humáni géneris in ligno Crucis constituísti: ut unde mors oriebátur, inde

わたしがその方を知らないと言え、わたしは、あなた方のような偽り者になるであろう。だが、わたしはその方を知っており、その方の言葉を守っている。あなた方の父アブラハムは、わたしの日を見ることを大いに楽しみにしていた。そして、それを見て喜んだ」。すると、ユダヤ人たちはイエスに向かって、「あなたはまだ五十歳にもならないのに、アブラハムを見たのか」と言った。イエスは彼らに仰せになった、「よくよくあなた方に言うておく。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある』」。そこでユダヤ人たちは石を拾ってイエスに投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、神殿の境内から出ていかれた。

奉納唱

主よ、私は、心をつくして主をほめたたえよう。主の下僕を祝福し給えば、私は生き、そして、御言葉を守るであろう。御約束に従って、私を生かしたまえ。

密唱

主よ、願わくは、この供物が、われらの不義の鎖を解き、御慈悲の恵みを下さんことを。神として……

叙唱（聖十字架）

聖なる主、全能の父、永遠の神よ、われらが、いつも、どこにても、主に感謝をささげるのは、実にふさわしく、正しいことであり、われらの義務と救いである。なぜなら、御身は、十字架の木において人類の救いをなしとげ給うたから

vita resúgeret: et qui in ligno vincébat, in ligno quoque vincerétur: per Christum Dóminum nostrum. Per quem majestátem tuam laudant Angeli, adórant Dominatiónes, tremunt Potestátes. Cæli, cælorúmque Virtútes ac beáta Séraphim, sócia exsultatióne concélebrant. Cum quibus et nostras voces, ut admítiti júbeas, deprecámur, súplici confessióne dicétes:

一コリント 11.24,25

HOC corpus, quod pro vobis tradétur: hic calix novi testaménti est in meo sanguíne, dicit Dóminus: hoc fácite, quotiescúmque súmitis, in meam commemoratióne.

ADÉSTO nobis, Dómine Deus noster: et quos tuis mystériis recreásti, perpétuis defénde subsidiis. Per Dóminum.

である。それは、死がはじまった所から、再び生命がよみがえり、木（エデンの）に勝ったもの（悪魔）が、木（十字架の）によって敗られるためであった。かれによって、天使らは、主のみいずをほめたたえ、主天使は礼拝し、能天使はふるえおののく。天と天の力天使と、福なる熾天使は、共によるこび、それをたたえ奉る。願わくは、かれらの声に、われらの声をも交えさせ給え。われらは深く礼拝しつつ、こう歌うであろう。

拝領唱

これは、お前たちのための、私の体である。この杯は、私の血における新しい契約である。これを飲むごとに、私の記念としてこう行え、と主は仰せられる。

聖体拝領後の文

われらの神なる主よ、われらとともにましまし、聖なる奥義をもって慰めたもうたわれらを、守りたまえ。神として……。

※日本語訳は福音書及び書簡を除き、バルバロ『毎日のミサ典書』より引用。福音書及び書簡の日本語訳はフランシスコ会聖書研究所訳『聖書』（2011年）より引用。

「信仰年」の祈り（カトリック東京大司教区認可）

いつくしみ深い父よ、あなたは今から50年前、カトリック教会に第二バチカン公会議開催という恵みを与えてくださいました。公会議は、世にあって救いのしるしとなるという教会の使命を現代世界の中でよりよく果たすことができるよう、教会を刷新する大きな力となりました。

▲今、それを記念して「信仰年」を過ごすわたしたちを聖霊によって強め、導き、新たにしてください。救いの道具として選ばれ、地の塩・世の光として派遣されている教会共同体が、現代の荒れ野において悩み苦しむ多くの人々

のいやし、慰め、励まし、希望となることができるよう。
わたしたちの主イエス・キリストによって。▲アーメン。

またのご参列を楽しみにお待ちしております。

ウナ・ヴォーチェ・ジャパン一同 (Mail:info@uvj.jp URL: <http://uvj.jp>)